

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立 牛津中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	「確かな学力の育成」については、全職員による相互参観授業や効果的にICTを活用することで、授業の質が向上し、ほぼ全生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、県学習状況調査の正答率の向上につながった。今後さらに教職員・生徒のICT活用スキルを上げることで、授業の質の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」については、ほぼ全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えたことから、学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」については、9割以上が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」生徒や「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができた。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、さらに、意識改革を図り、推進していきたい。
---------------	--

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る</li> <li>② 豊かな人間性の育成：支持的風土をもつ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る</li> <li>③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を100%にする。	・ICT活用研修を必要に応じて実施し、職員のICT活用技能向上を目指す。わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回の参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指す。	A	・職員間の研究授業や授業参観を行うことで、牛津中授業力向上に繋げることができた。また、ほぼ全職員が1回は研究授業を実施し、スキルアップをすることができた。 ・「ICT活用」した授業を実施できた職員が89%であった。100%になるよう、今後も研修等に力をいれていく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安心して生活できる学校・学年・学級集団づくりを推進し、「特別な教科 道徳」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート調査等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・学年職員全員で、「特別な教科 道徳」の授業を行い、豊かな人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い支えあえる学校・学年・学級集団づくりの推進を行う。	A	・97%の生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えている。これは、ICTの活用を中心に職員の授業力が向上していると考えられる。 ・96%の生徒が「安心して学校生活できる望ましい学級・学年集団作りをされている」と答えている。職員の認め合う集団づくりの成果と考えられる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の日常生活や相談、つぶやき等、生徒の変容を常に観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用し、定期的な調査等(月に1回)を実施する。	・生徒指導部や生徒支援部会の運営を充実させることで全職員で情報を共有し、各種研修等で職員のスキルアップを図るとともに、いじめの未然防止に努める。 ・QUの実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。	A	・生徒96%、教職員100%、保護者の回答でも約98%以上の回答で「あてはまる」と答えている。道徳の授業以外にも日常生活や、各行事等で自己肯定感を育て、他との関わり大切に気づけるような活動の支援が効果的であった。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の学力向上・資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種活動で児童生徒に活動の見通しと振り返りを行う活動の充実。 ・生徒指導の機能を生かした取り組み。(出番・役割・承認)	A	・「めあて」を意識した授業に取り組んでいる生徒は89%であり、学習意欲が高い。職員がわかりやすい授業に取り組んでいることが要因と考えられる。 ・今後もICTの活用や研修、県外への進校視察(2回)で継続的に学力の向上に努めていく。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。	A	・98%の生徒が「健康に食事は大切である」と回答した。また、毎日きちんと朝食をとって登校している生徒が96%以上という結果になった。(保護者)食事が健康にとって大切であるという意識の向上と習慣の定着を図ることができた。
	○健康・安全教育の推進	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施する。	○発育測定などで自分の体のことを知り、健康を守ろうとする意識を高めるために、学校医等の外部講師による保健指導の工夫。	A	・健康教育を各学年1回または2回実施し、97%の生徒が「自他の命を尊重する大切さを学ぶことができた」と回答。実施前後のアンケートでは、健康に関する意識が向上しており、効果的な健康教育が実施できた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容の適正化を図る。 ・定時退勤推進日の設定を行うとともに声かけを行う。	A	・部活動休養日の実施については、ほぼ100%実施できている。定時退勤日については続けて呼びかけを行い、遅くとも部活動終了後1時間以内に退勤できている。職員の時間外勤務の削減を意識した働き方を実践することができた。
	○チームを意識した効率的な業務の推進	○効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外在校時間を1か月当たり、前年度比より削減する。	・チームによる組織的な対応を進めることで校務分掌や個人の負担軽減を図るとともに、風通しのよい職場環境づくりを進める。	A	・職員の96%が業務の効率化を図るために、組織的・計画的な対応を進めることができた。 ・時間外勤務については、ほぼ全月で前年比を超える削減となっている。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	重点取組内容	成果指標(数値目標)			
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み	○小中による授業参観を学期に1回行う。	・小中による授業参観後、情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。	A	・小中連携の授業参観は研究発表以降は実施しなかったが、「特別支援教育部会」「教育相談部会」などにおける情報交換は密に行い、生徒理解に努めることができた。
○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図る	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒の希望進路を実現できるように努める。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、特別支援教育コーディネーターや進路指導主事を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要なときには研修機会を設け、保護者との連携を図り、専門家からの指導・助言を支援に生かす。	A	・ケース会議は基本的には学年ごとに、生徒一人に対し複数回実施。 ・コーディネーターやSC、SSW等との連携で細やかな支援体制をとることができた。 ・特別支援教育の校内研修への講師招聘など、専門家の助言を受ける機会を設けた。 ・主としてSCのアドバイスを受けて、保護者との連携を図った。 ・関係機関との連携も行うことも重要で、外部との連携も強化していく。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	「学力向上」「確かな学力の育成」については、全職員による研修や相互参観授業、効果的にICTを活用することで、授業の質が向上してきている。ほとんどの生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、各種の学力検査(定期テスト・実力テスト等)の正答率の向上につながり、無回答率も減ってきている。今後さらに教職員・生徒のICT活用を中心としたスキルを向上させることで、教員の授業力、生徒の意欲の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」についても、ほとんどの全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えている。学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」についても同様に、ほとんどの生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができていく。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、定時退勤や時間外勤務など減少し、効果が現れてきているが、さらなる意識改革を図り、推進していきたい。
----------------	--